日本経営学会第９５回大会プログラム

統一論題「日本企業再生の課題」

２０２１年9月１日～４日（同志社大学：オンライン開催）

実行委員長挨拶

日本経営学会第95回全国大会は2021年9月1日（水）～9月4日（土）の日程（9月1日は理事会等の開催のみ）で、同志社大学を主催校として開催されます。ただし現状では、ワクチン接種が始まったとはいえCOVID-19の世界的パンデミック状況は未だ終息の気配を見せず、各種変異株の発生とその感染拡大もあり、通常形式での全国大会開催は困難と判断せざるを得ません。そのため、昨年の第94回大会に引き続いて、第95回大会もオンライン開催とすることを日本経営学会理事会でご承認頂きました。またこれに伴い、今大会も大会参加費無料で開催することになりました。

オンラインによる全国大会開催は、通常形式の全国大会と比較すれば対面による様々な利点を欠くという面がありますが、他方で学会参加が容易であり参加者が増加するという無視できないメリットもあります。主催校としては、学会発表関連アーカイブの期限付き公開など、その他の利点の可能性を追求するとともに、通信システムの安定提供および分かり易い運営等に努力する所存です。

オンライン関係以外の新規の取り組みとして、今大会に向けて、昨年秋からプログラム委員会と連携を取り、統一論題サブテーマごとに報告者・討論者・司会者とプログラム委員を交えた事前研究会を繰り返すことで、統一テーマ「日本企業の再生の課題」にそれぞれのサブテーマから議論を深めるという、これまでにない新しい取り組みを進めています。日本企業の再生に何が必要とされているのか、なぜそれが必要と言えるのか、それによって現状の日本的経営の何が変わっていくべきなのか、これらの枢要な学問的課題の解明に第95回全国大会統一論題が少しでも貢献できるように努めて参ります。

CFP報告者の募集、大会参加登録等のご案内、プログラムの詳細等は、今後随時、学会ホームページ等でお知らせします。最後になりますが、本年は同志社大学商学部開設100周年にあたります。記念すべき年に全国大会を開催できることに御礼申し上げます。

第95回大会実行委員長　鈴木 良始

プログラム委員長挨拶

今大会の統一論題のテーマは、「日本企業再生の課題」です。ご承知の通り、日本経済・日本企業は長期的な停滞傾向から抜け出せない状態にあります。1990 年代から始まった「失われた 20 年」は、今では「失われた 30 年」に引き 継がれてしまっています。日本の就業者時間あたり生産性（時間あたり GDP 産出額）が、主要先進 7 カ国の中で最下位という状況が長く続いていること、多くの国際比較調査が、日本の会社員の働く意欲・組織貢献意欲（モチベーションな いしエンゲージメント）が著しく低下していることを明らかにしていること、1990年代以降に日本企業が取り組んできた経営改革が、十分な活力ある企業経営をもたらさなかったという事実など、停滞を示す症状は幾つもあります。私たちは、学会として、この状況から脱却する方向性を探究しなければならないと考えています。

サブテーマにつきましては、①「決められない、変われない組織からの脱却」、②「グローバル化の新展開と企業経営の未来」、③「フィロソフィー経営の可能性」を設定しております。すでに述べたように日本経済・日本企業は長期的な停滞傾向から抜け出せない状態にありますが、幸いなことに新しい方向性を示唆する事例は存在しており、一部の日本企業の取り組みやアメリカ企業の先進的経営動向の中に経営革新の新しい芽を見出すことができます。今大会では、それらを具体的に取り上げ、サブテーマでの報告・討論を通じて、日本企業再生の方向性を考察することが期待されています。

既に大会実行委員長の鈴木先生も書かれていますように、第９５回大会では、新しい取り組みとして、統一論題に関して、それぞれのサブテーマごとに報告者等決定前の研究会を１度、決定後の研究会を３～４回、プログラム委員を交えて開催しております。これは、従来の統一論題報告において、統一論題の趣旨に合わない報告が散見されていたのではないかという反省に基づいております。

サブテーマによりましては、大会直前の８月下旬まで研究会を開催する予定となっております。研究会では、毎回、数多くの議論・意見交換がなされていますので、報告者の当日の報告タイトルが、事前に示されていたものとは変更される可能性もございます。また、原稿締め切りの都合上、事前に提出された報告要旨とは異なった内容の報告がなされる可能性もございます。この点、ご容赦いただきますようにお願い申し上げます。

なお、従来通り、プログラムには自由論題、院生セッション、ワークショップも含まれています（運営の都合上、自由論題、院生セッションの報告・討論時間は、昨年度同様、同一とさせていただきます）。多くの会員の皆様のご参加を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

第 95 回大会プログラム委員長 今西 宏次

第95回大会　統一論題およびサブテーマ

統一論題「日本企業再生の課題」

日本経済・日本企業が長期停滞から抜け出せないでいる。1990年代から始まった「失われた20年」は、今では「失われた30年」に引き継がれつつある。停滞を示す症状は幾つもあるが、以下に4つの症状を挙げてみよう。

第1に、労働生産性が停滞している。日本の就業者時間あたり生産性（時間あたりGDP産出額）は、主要先進7カ国の中で最下位という状況が長く続いている。OECD加盟36カ国中では21位である。製造業に限っても、OECD加盟主要31カ国の中で14位にすぎない。長期停滞の結果、気がつけば日本は先進国というよりも「中進国」の1つに過ぎなくなっているのである。

第2に、多くの国際比較調査が、日本の会社員の働く意欲・組織貢献意欲（モチベーションないしエンゲージメント）が著しく低くなっていることを明らかにしている。日本の働く人々に元気がない。そして、この点を経営の課題として深刻に受け止める経営者が少ないことも、憂慮すべきことである。労働意欲の低さが労働生産性や革新性に影響することは、多くの実証データが裏付けているところである。

第3に、戦後一貫して優秀な労働力を惹きつけてきた日本企業に対して、「大企業離れ」が始まっている。学生の就職希望先として、さらには大企業若手社員の転職希望先として、外資系企業、外資系コンサルティング、また日本企業の中でもベンチャー企業が挙げられるという傾向が鮮明になりつつある。若者が自ら起業する流れも強まっている。優秀な若い世代が、「頭の固い大企業」で働くことを忌避する傾向が強まっているように見える。

第4に、1990年代以降に日本企業が取り組んできた二つの経営改革、すなわちMBO（目標管理制度）と成果主義の結合、および株主価値重視へのコーポレート・ガバナンス改革のいずれもが、活力ある企業経営をもたらさなかったという事実である。しかも、この破綻をはっきり認識し、新しい経営革新の方向を真剣に模索する日本の大企業が少ないことも、長期停滞の特徴の一つである。

私たちは、この状況を脱却する方向性を探究しなければならない。それが、統一論題「日本企業再生の課題」の趣旨である。

しかし、幸いなことに新しい方向性を示唆する事例がないわけではない。一部の日本企業の取り組みの中にも、またアメリカ企業の先進的経営動向の中にも、経営革新の新しい芽を見出すことができる。それらを具体的に取り上げ、日本企業再生の方向性を考察することが、三つのサブテーマに期待される課題である。

サブテーマ①「決められない、変われない組織からの脱却」

何に取り組めば現状の停滞を打破して組織を活性化できるのか、多くの日本企業が脱却の方向性を決めきれないでいる。しかし、全ての日本企業が停滞しているわけではない。日本企業の中にも新しい組織のあり方を開拓・実践し、おおかたの日本企業とは異なり社員のエンゲージメントも高く、高い組織パフォーマンスをあげている事例がある。また、活力ある新しい組織変革の事例は、むしろアメリカ企業の中に多くを見出すことができる。グーグルに代表されるように、そのような企業こそが、現在のアメリカ経済を牽引するようになっている。かつてのアメリカ経済の中心であったGM、ゴールドマン・サックス、バンカメといった大企業ではなく、過去20～30年に現れた新興企業の急成長が新しい組織革新の中心となっている。

サブテーマ1は、日本とアメリカの先進的な組織~~変革~~革新の実践事例を取り上げ、日本企業の未来にとっての含意を、掘り下げて考察することを課題とする。

この課題は、アメリカにおいて過去20年のあいだに次第にその形をはっきりさせてきた、ピープルマネジメントという組織経営の新しい潮流を真剣に取り上げることを提起するものである。ピープルマネジメントは経営パラダイムの大きな転換を意味している。そこには、人を組織目標達成のための手段・管理対象とみる伝統的考え方から、組織と人の対等性を基本として、人の納得・合意を調達しながら組織と人がWin-Winで統合される新しい企業経営への、経営パラダイムの転換が認められる。この新しいパラダイムは、ノーレイティング、エンゲージメント経営、OKRと1on1、経営情報のオープンな共有化と組織内の自由な発言と議論、チーム型の働き方の普及とミドルのリーダーシップの変容などの、新しい組織経営のあり方を次々と生み出している。日本企業の中にも、これらの考え方を実践する事例が生まれている。これらの動向を取り上げ、その内容を伝統的な日本的経営と比較考察して、日本企業の組織活性化にとっての意義を追究することが、サブテーマ1の課題として想定される。

またサブテーマ1は、サブテーマ3と重なる課題をも想定している。新しい組織経営は、企業はどのように社会に貢献するのかという経営理念・価値観・ミッションを経営の実質に内面化することを通じて、社員の仕事に意味を付与し、社員を組織目的に統合し、それによって組織を活性化するという方向性を含んでいる。それは、株主中心主義のコーポレート・ガバナンスに再考を迫り、コーポレート・ガバナンスを新しい視点から捉えなおすという視点でもある。

サブテーマ②「グローバル化の新展開と企業経営の未来」

日本企業・日本全体をみると、この30年間、停滞または沈下の傾向が否めない。しかしながら、そうした日本企業の中でも過去30年間にわたりほぼ一貫して売上高と海外売上高比率を上昇させ、世界に多数の経営拠点を配し、高い経営成果を挙げ続ける企業もある。ダイキン、コマツ、クボタ、トヨタ、ホンダなどは、いずれも海外売上比率が70～80%に達し、しかも特定地域に偏らず、ほぼグローバルに展開している。こうした企業の実例は、中堅企業まで視野を広げればさらに増加するものと思われる。サブテーマ2では、このような成長企業がどのような経営によってグローバルに成長を続けているのか、違いはどこにあるのか、その要因（戦略、組織、イノベーション、経営慣行）を考察することを通じて、企業経営の未来を提示することに貢献したいと考える。

サブテーマ③「フィロソフィー経営の可能性」

京セラの創業者、稲盛和夫氏が主宰し、同氏の経営哲学を学び普及させてきた「盛和塾」が、2019年末をもって解散した。盛和塾の活動に代表される経営哲学は、真善美や究極的な価値を追求しながら、人間の幸福という問題にも連なっていき、企業の収益性、効率性、正当性にも影響していく。さらに経営哲学は経営理念や行動指針としてブレークダウンされることで組織文化ともなりうる。したがって経営哲学は、社会的価値のありようやステークホルダーの幸福を左右するという点だけでなく、経営成果を左右するという点で、思想的にも実践的にも重要であり続けている。サブテーマ3では、経営哲学から組織文化へ、組織文化からガバナンスへという実務的展開のありようをフィロソフィー経営とよんで、日本企業が主体的に活路を開く手段として有用かという問題意識から、事例分析を中心として比較考察していきたい。

【プログラム委員会】

委員長：今西宏次

委　員：池内秀己、浦野倫平、太田原準、鈴木良始、三戸　浩、森田雅也

第９５回大会スケジュール

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
9月1日（水）				各種委員会（委員長により適宜開催）		14:00 常任理事会		16:00 理事会			
9月2日（木）		9:30-12:00 自由論題① 報告時間30分・質疑応答15分 交代時間5分		12:00-13:00 昼食（理事会）	13:00-16:40 開会式 統一論題 サブテーマ① 「決められない，変われない組織からの脱却」				17:00-18:30 会員総会		
9月3日（金）		9:30-12:45 統一論題 サブテーマ② 「グローバル化の新展開と企業経営の未来」		12:45-13:45 昼食	13:45-15:00 学会賞セッション		15:15-18:40 統一論題 サブテーマ③ 「フィロソフィー経営の可能性」 統一論題の総括				
9月4日（土）		9:30-12:00 自由論題② 報告時間30分・質疑応答15分 交代時間5分		12:00-13:00 昼食	13:00-15:30 自由論題② 報告時間30分・質疑応答15分 交代時間5分		15:45- 閉会式		17:00-19:00 同志社大学商学部100周年記念事業 特別講演会		

統一論題のタイムスケジュール

サブテーマ①（9/2午後）

13:00-13:10	開会式・理事長挨拶
13:10-13:15	開会式・実行委員長挨拶
13:15-13:30	統一論題とサブテーマ①の趣旨説明
13:30-14:00	第１報告
14:05-14:35	第２報告
14:40-15:10	第３報告
15:15-15:25	休憩
15:25-15:40	コメント
15:40-16:00	リプライ
16:00-16:30	フロアとのディスカッション
16:30-16:40	司会者のとりまとめ

サブテーマ②（9/3午前）

09:30-09:35	サブテーマ②の趣旨説明
09:35-10:05	第１報告
10:10-10:40	第２報告
10:45-11:15	第３報告
11:20-11:30	休憩
11:30-11:45	コメント
11:45-12:05	リプライ
12:05-12:35	フロアとのディスカッション
12:35-12:45	司会者のとりまとめ

サブテーマ③（9/3午後）

15:15-15:20	サブテーマ③の趣旨説明
15:20-15:50	第１報告
15:55-16:25	第２報告
16:30-17:00	第３報告
17:05-17:15	休憩
17:15-17:30	コメント
17:30-17:50	リプライ
17:50-18:20	フロアとのディスカッション
18:20-18:30	司会者のとりまとめ
18:30-18:40	統一論題の総括

2021年9月2日（木）

	9:30-	10:20-	11:10-
	自由論題報告		
A会場	【司会】平野恭平（神戸大学）		
	A-1	A-2	A-3
	中園宏幸（広島修道大学） 両利きによって失われるアンビデクステリティ	中本龍市（九州大学）・野口寛樹（福島大学） 国内での顧客取引の地理的範囲の拡張が組織成長に与える影響	平井孝志（筑波大学）・木野泰伸（筑波大学） ダイナミック・ケイパビリティと規範的戦略論の視座に基づく中期経営計画の評価―電機業界を事例に―
B会場	【司会】涌田幸宏（名古屋大学）		
	B-1	B-2	B-3
	野間口隆郎（中央大学） イノベーションのためのミドル・アップアンドダウンに関する考察	伊東孝（元株式会社シンクロン） 日本企業で働くシニアの「遊休化」～「問題起点」の「原因整理」～	西村知晃（多摩大学）・犬飼知徳（中央大学）・寺畑正英（東洋大学）・上小城伸幸（近畿大学） 心理的安全性の組織内における越境的形成とRPA推進
C会場	【司会】庭本佳子（神戸大学）		
	C-1	C-2	C-3
	佐藤佑樹（流通経済大学）・田中秀樹（同志社大学） 上司によるエンパワーリングリーダーシップは従業員のパーソナル・イニシアチブを高めるのか	佐瀬美恵子（北海学園大学） 中途採用者の職場定着促進要因についての一考察―病棟看護師長のサポートに着目して―	北野康（大東文化大学） 上司のエンパワリングリーダーシップ発揮が従業員の革新的行動に与える影響過程の分析―調整変数としての従業員の個人特性に着目して―
D会場	【司会】瓜生原葉子（同志社大学）		
	D-1	D-2	D-3
	山崎敏夫（立命館大学） ドイツ３大銀行における役員兼任ネットワークの構造:第２次大 戦前と大戦後の比較	小久保欣哉（二松学舎大学） 大手企業ト ップへのエグゼクティブコーチングは経営成果に影響するか：傾向スコア・マッチング法による実証分析	焦雅（早稲田大学） トップマネジメントチームの特性と働き方改革との関係性
E会場	【司会】井上善海（法政大学）		
	E-1	E-2	E-3
	工藤周平（石巻専修大学）・益満環（秋田大学）・杉田博（石巻専修大学） 経営方針書の有無による企業の比較分析：宮城県中小企業の事例	大前智文（駒沢大学） 中小企業問題としての事業承継に関する一考察―「第二創業」の再検討から―	田中克昌（文教大学） 中小製造業の工作機械活用におけるイノベーション・マネジメント―金属加工業を事例として―
F会場	【司会】咲川孝（中央大学）		
	F-1	F-2	F-3
	グェン・チ・ギア（青森中央学院大学） 制約対応における資源の分析方法と心理マネジメントの関係に関する学際的考察	三島斉紀（神奈川大学） アルダファーがE.R.G.理論のために調べた被験者たちは、マズローが自己実現論で挙げた被験者条件と合致しない	入江信一郎（京都工芸繊維大学） マネジメント対象の共同体への拡張―高度化した自由経済における公共の萌芽―

	9:30-	10:20-	11:10-
	自由論題報告		
G会場	【司会】伊藤泰生（千葉商科大学）		
	G-1	G-2	G-3
	榎本俊一（関西学院大学） 工作機械メーカーのSmart Factroyソリューション	齊藤慎弥（環太平洋大学） ICT発達に伴う産業論の再考	速水悟（早稲田大学） 製造業における AI 活用の拡大：現状と課題

	9:30-
	ワークショップ
H会場	H-1
	岩淵護（青森大学）・佐々木純一郎（弘前大学）・下畑浩二（相愛大学）・西村晋（嘉悦大学） 東北部会発―地域の変貌と地域企業の未来
I 会場	I-1
	細川孝（龍谷大学）・安達房子（京都先端科学大学）・上林憲雄（神戸大学）・木村有里（中央大学）・齋藤敦（徳島文理大学）・田中信弘（杏林大学）・奈良堂史（関東学院大学）・百田義治（駒澤大学） 日本経営学会における経営学教育の振興

2021年9月2日（木）午後

	13:00-16:40
	統一論題
J会場	サブテーマ①　「決められない，変われない組織からの脱却」
	【司会者】鈴木良始（同志社大学） 【報告者】山中伸彦（立教大学）「現代企業の組織デザインと経営者の役割:組織デザインの補完性、信頼とイノベーションの関係に関する分析」 安藤史江（南山大学）「変わり続ける組織の遠投経営」 馬塲杉夫（専修大学）「個が活かせない原因と分離融合のダイナミズム」 【討論者】森永雄太（武蔵大学）

	17:00-18:30
J会場	会　員　総　会

2021年9月3日（金）

	9:30-12:45
	統一論題
J会場	サブテーマ②「グローバル化の新展開と企業経営の未来」
	【司会者】太田原準（同志社大学） 【報告者】弘中史子（中京大学）・寺澤朝子（中部大学）「日本人駐在管理者と現地従業員間のコミュニケーションに関する一考察：中小製造業のマレーシア拠点を事例として」 水野由香里（立命館大学）「中堅中小企業の海外展開～森松工業とナベルの事例から～」 横井克典（九州産業大学）「最適な資源配置を目指し続ける調整機構―本田技研工業・二輪事業の国際分業の事例ー」 【討論者】森樹男（弘前大学）

J会場	**13:45-15:00**
	学 会 賞 セ ッ シ ョ ン

	15:15-18:40
	統一論題
J会場	サブテーマ③「フィロソフィー経営の可能性」 統一論題の総括
	【司会者】山内雄気（同志社大学） 【報告者】後藤俊夫（日本経済大学）「理念経営の可能性と方法 ーファーウェイの事例研究ー」 瀬戸正則（広島経済大学）「'内省'を活かすフィロソフィー経営に関する一考察―中小製造業の「物語」に着目して―」 西口泰夫（山田コンサルティンググループ）「企業経営になぜ経営倫理と経営論理が必要か」 【討論者】入江信一郎（京都工芸繊維大学）

2021年9月4日（土）

	9:30-	**10:20-**	**11:10-**
	自由論題報告		
A会場	【司会】國島弘行（創価大学）		
	A-4	A-5	A-6
	黒澤佳子（法政大学） 女性後継者の事業承継後の新事業戦略 ～準備期間のない事業承継を事例として～	坂井俊文（北海道科学大学） ファミリーアントレプレナーによる新規事業創造の要因とプロセス	武居奈緒子（摂南大学）・井形浩治（大阪経済大学） 三井呉服店のビジネス・イノベーション
B会場	【司会】菊澤研宗（慶應義塾大学）		
	B-4	B-5	B-6
	淺井洋介（神戸大学） イノベーションにおける部門間連携のメカニズムにかんする研究	鈴木修（関西学院大学） 組織スラックの影響を経営陣の傾注が媒介するメカニズムに関する実証研究	塩谷未知（青森中央学院大学） 「地域に根差した『企業ドメイン研究会』活動について」～地域と教育の現場の実践から～
C会場	【司会】西村香織（九州産業大学）		
	C-4	C-5	C-6
	今川智美（ビジネス・ブレークスルー大学大学院） HSP（Highly Sensitive Person：感覚処理感受性の高い人）のストレスモデル―職場に伏在するストレス要因とその影響―	大塚英美（神戸学院大学） インクルージョンをもたらす職場の要因に関する質的研究	三崎秀央（兵庫県立大学）・千田直毅（神戸学院大学） 従業員のWLB 施策への肯定的評価に組織的公正が与える影響

	9:30-	10:20-	11:10-
	自由論題報告		
D会場	【司会】太田稔（札幌大谷大学）		
	D-4	D-5	D-6
	遠藤哲哉（青森公立大学） Local Management in times of Covid-19: From the View Point of "New Public Community Innovation"	高千穂安長（東北大学） 自治体を中心とした防災効果向上―雪害を対象に―	杜雨軒（東北大学） CSRの原因帰属と消費者の知覚反応
E会場	【司会】宮尾学（神戸大学）		
	E-4	E-5	E-6
	石田晃史（パレクセル・インターナショナル株式会社） 医薬品開発エコシステムにおけるCRO（開発業務受託機関）の役割と発展	奈良堂史（関東学院大学） コロナ後のプロスポーツビジネス研究における課題と方向性―プロ野球の球団経営史からの考察―	森田純恵（株式会社富士通ゼネラル） 日系メーカーのIT活用戦略～米国企業との基点の相違～
F会場	【司会】下畑浩二（相愛大学）		
	F-4	F-5	
	加納拡和（大分大学） 早期国際化企業における地理的範囲の拡張：ペンローズの企業成長理論からのアプローチ	岸本太一（東京理科大学）・岸保行（新潟大学） 文化製品の国際普及を促進する'ブーム'の活用	
G会場	【司会】松田健（駒澤大学）		
	G-4	G-5	G-6
	奥康平（阪南大学） 純粋持株会社本社によるグループ経営の理論と実態―三重交通グループホールディングス株式会社を事例とした企業の境界再設定試論―	荒尾正和（ほがらか信託株式会社）・西村公志（アップスマート株式会社）・落合康裕（静岡県立大学）・後藤俊夫（日本経済大学） ファミリービジネスの所有構造とその変遷に関する研究	村田大学（大原大学院大学） ドイツのコーポレート・ガバナンス改革と監査委員会の動向

	9:30-
	ワークショップ
H会場	H-4
	平澤哲（中央大学）・横山恵子（関西大学）・伊藤博之（大阪経済大学） 山田仁一郎（大阪市立大学）・筈井俊輔（金沢学院大学） パレーシアの行使と社会的企業家の倫理的な主体形成の探求―アニータ・ロディックは、いかにして、"ボディ・ショップのアニータ"になったのか？―
I会場	I-4
	大平義隆（北海学園大学）・西村友幸（小樽商科大学）・玉井健一（小樽商科大学） 北方バーナーディアンの挑戦5―「われわれ意識」に意識を向ける―

2021年9月4日（土）午後

	13:00-	13:50-	14:40-
	自由論題報告		
A会場	【司会】所伸之（日本大学）		
	A-7	A-8	A-9
	森俊也（長野大学） 成熟期にある企業は，何を自覚し，何を思うことで望ましいとされる方向に向かうのか	畑中艶子（国際ファッション専門職大学） ケリングのSDGsに向けての経営戦略	八木俊輔（追手門学院大学） 企業のサステナビリティを担保する戦略・マネジメントに関する研究―SBSCに着目して―
B会場	【司会】千田直毅（神戸学院大学）		
	B-7	B-8	
	星野広和（國學院大學） 製品リコールを通じた組織学習―組織外-自発的学習の有効性に関する一考察―	楊一（大阪市立大学） 組織の創造性における制御と自由のパラドックス―吉本新喜劇の事例研究―	
C会場	【司会】木村有里（中央大学）		
	C-7	C-8	C-9
	山田政樹（小樽商科大学） 質的調査によるITソフトウェア技術者のコンピテンシー	福井啓介（EdMuse株式会社） 外部労働市場における能力情報の現状と課題　―ブロックチェーンを活用した能力評価ツールの開発に向けた研究―	矢澤健太郎（東京国際ビジネスカレッジ） 進展しない外国人雇用政策：専門学校の現場経験からの報告
D会場	【司会】渡辺敏雄（関西学院大学）		
	D-7	D-8	D-9
	青木崇（大阪国際大学） 日本企業のSDGs事業の特徴とダイバーシティの課題	保浦聡（北海学園大学） 不祥事防止に対する企業倫理浸透の阻害要因についての考察	野林晴彦（北陸学院大学短期大学部） 経営理念の理論モデルに関する検討―テクストとしての経営理念と、その浸透および変更（変化）―
E会場	【司会】玉井健一（小樽商科大学）		
	E-7	E-8	
	竹野忠弘（名古屋工業大学） 中京圏自動車部品企業における技術営業事例の考察	牧良明（大阪市立大学） 日本自動車産業における半導体技術の導入過程	
F会場	【司会】太田原準（同志社大学）		
	F-7	F-8	F-9
	秋野晶二（立教大学）・山中伸彦（立教大学）・菊池航（立教大学）・黄雅雯（北星学園大学） グローバル・バリューチェーン・ガバナンスの理論と実態に関する研究―アップル社の事例を中心に―	菅田浩一郎（常磐大学） 日立地域中小企業の国際化における Lateral Rigidityと自立化	赤羽淳（中央大学） Study of the Global Market Portfolio of the Big Seven Automakers

	13:00-	13:50-	14:40-
	自由論題報告		
G会場	【司会】井上善博（神戸学院大学）		
	G-7	G-8	
	河村直樹（明治大学） 経済的価値と社会的価値の統合―経営哲学の観点から―	大江秋津（東京理科大学）・三橋平（早稲田大学） 歴史からの理論構築と実証に関する考察―藩校における知識蓄積は幕末の動乱を生き抜くのに役立ったか?―	

J会場	**15:45-16:00**
	閉　会　式

Z会場	**17:00-19:00**
	同志社大学商学部100周年記念事業　特別講演会
	ダイキン工業株式会社 取締役 兼 副社長執行役員 峯野　義博 氏 「グローバル競争を勝ち抜く為に―リーダーシップと現場力―」

日本経営学会
第９５回大会実行委員会

麻生潤・陳燕双・今西宏次・的場竜一
中道一心・西川純平・太田原準
佐藤郁哉・関智宏・鈴木良始・谷本啓
冨田健司・瓜生原葉子・山内雄気

第９５回大会実行委員長　鈴木良始